

学位論文評価基準

<p>修士論文</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究の主体性 論文作成者が主体的に取り組んだ研究により作成された論文であること 2 研究課題の妥当性・意義 研究課題が専攻学術領域において妥当なものであり、かつ学術的・社会的な意義を有すること 3 研究方法の適切性 先行研究を十分に理解・検討し、研究課題との関連及び相違を明確に提示するとともに、研究課題と専攻学術領域に求められる研究方法を採用し、研究結果の処理や分析・考察が適切かつ十分に示されていること 4 研究内容の新規性・独創性・有用性 研究内容に新規性、独創性又は有用性が認められること 5 論文の論理性 論文の構成・論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること、並びに論文の体裁・語句の使用・文章表現・図表の作成法が的確で、情報や文献の引用が適切であること 6 学術研究における倫理性 学術研究が従うべき規範と研究倫理を遵守していること
<p>特定の課題についての研究の成果</p>	<p>建築学専攻「建築設計特別研究」では、修士論文に代えて特定の課題についての研究の成果の評価を行う。特定の課題についての研究成果とは、研究に基づいて作成される建築の設計作品であり、趣旨、図面及び作品を立体的に表現するもの（模型等）によって構成されるものとし、以下の基準で評価される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究の主体性 設計作品作成者が主体的に取り組んだ研究により作成された設計作品であること 2 研究課題の妥当性・意義 研究課題が専攻学術領域において妥当なものであり、かつ学術的・社会的な意義を有すること 3 研究方法の適切性 先行研究を十分に理解・検討し、研究課題との関連及び相違を明確に提示するとともに、専攻学術領域に求められる研究方法を採用し、研究成果が適切かつ十分に示されていること 4 研究内容の新規性・独創性・有用性 研究内容に新規性、独創性又は有用性が認められること 5 設計作品の論理性 設計作品の構成が明確かつ適切で、設計作品に至る論理展開に一貫性が認められること、並びに設計作品の体裁・語句の使用・趣旨、図面及び作品を立体的に表現するもの（模型等）が的確で、情報や文献の引用が適切であること 6 学術研究における倫理性 学術研究が従うべき規範と研究倫理を遵守していること
<p>博士論文</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究の自立性 論文作成者が自立して取り組んだ研究により作成された論文であること 2 研究課題の妥当性・意義 研究課題が専攻学術領域において妥当なものであり、かつ学術的・社会的な意義が高いこと 3 研究方法の適切性 先行研究を十分に理解・検討し、研究課題との関連及び相違を明確に提示するとともに、研究課題と専攻学術領域に求められる研究方法を採用し、研究結果の処理や分析・考察が適切かつ十分に示されていること 4 研究内容の新規性・独創性 研究内容に新規性及び独創性が認められること 5 論文の論理性 論文の構成・論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること、並びに論文の体裁・語句の使用・文章表現・図表の作成法が的確で、情報や文献の引用が適切であること 6 学術研究における倫理性 学術研究が従うべき規範と研究倫理を遵守していること